

# 夏季ピーク電力需要抑制に関する自工会取組み（案）

（東京電力・東北電力管内）

## 1 基本的考え方

- (1) 生産活動に影響を与えないことを前提に、計画停電を回避するため、各社は個別に最大限の節電努力を行う。
- (2) それと並行して、より大きなピーク電力需要抑制効果を得るために、産業界を挙げた取組み（複数業界・企業等での輪番による休日・長期休暇）を実現し、ピーク電力需要抑制と産業活動の両立を目指す。

## 2 取組みプラン（イメージ）と抑制効果、課題

取組み内容	抑制効果	主な課題
各社個別の最大限取組み <例> <ul style="list-style-type: none"><li>・ シフト時間の変更による電力需要ピーク時を外した操業</li><li>・ 直間時間の延長</li><li>・ 自家発・コジェネのフル稼働</li><li>・ 原動力供給・運転条件の抜本見直し</li><li>・ 電力デマンド監視システム</li><li>・ その他節電</li></ul>	ピーク電力需要 ▲25%を 目指す	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 労務費増</li><li>・ 自家発電コスト増</li></ul>
複数業界・企業等での取組み <ul style="list-style-type: none"><li>・ 輪番による休日・長期休暇</li></ul>		<ul style="list-style-type: none"><li>・ 他業界、企業等との合意形成</li></ul>